

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 平田 聖治

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 平田 聖治	[副委員長] 下間 康広
	[委員] 小林 毅	[委員] 山下 秋則
	[委員] 谷尻 宣雄	[委員] 西村 好高
	[委員] 仲村 学 (欠席)	
視察先	岐阜県飛騨市	岐阜県恵那市
視察日	令和7年7月22日 (火)	令和7年7月23日 (水)
視察時間	午後2時00分 ~ 午後3時30分	午前10時30分 ~ 午前11時50分
調査事項	・飛騨市ファンクラブ事業について	・「住みたい田舎ベストランキング」第1位を獲得された状況について
行政視察を終えて	<p>◆飛騨市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成16年2月1日に、古川町、河合村、宮川村、神岡町の2町2村が合併。 岐阜県の最北端に位置し、北は富山県、南は高山市、西は白川村に接している。 人口：21,439人 高齢化率：40.39% 全国の倍のスピードで人口減少、日本の30年後を上回る高齢化率である。 <p>人口減少時代を生き抜く過疎自治体の挑戦 ～ファンづくりから見出す地域経営～</p> <p>◆市としての課題解決の考え方</p> <p>「地域外の人との交流」、飛騨市に心を寄せてくださる方は全国にいるだろうが、どこにいるのか見えない。⇒飛騨市ファンクラブをつくろう！（ファンの見える化）</p> <ul style="list-style-type: none"> 飛騨市に心を寄せてくださる方を見える化して、直接コミュニケーションがとれる仕組みを構築。2017年（平成29年1月）飛騨市ファンクラブ設立。 <p>◆飛騨市ファンクラブの仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 会員にはオリジナル会員証と本人氏名入り名刺（20枚：希望者のみ）をプレゼント 会員の皆さんは、名刺を配って飛騨市のPRをお手伝い（観光大使風に） 会員は会員証、会員以外は名刺を持参して飛騨市へ来るとお得な特典が受けられる。 	<p>◆恵那市の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成16年10月25日に、恵那市、岩村町、山岡町、明智町、串原村、上矢作町の6市町村が合併。 岐阜県の南東に位置し、東は中津川市、長野県（平谷村、根羽村）、西は瑞浪市、南は愛知県豊田市、北は八百津町、白川町に接している。 人口：45,670人 世帯数：19,925世帯 2年連続！宝島社「住みたい田舎ベストランキング」で第1位。 2年連続、全国「人口3万人から5万人未満のまち」の総合部門、子育て部門の2部門で第1位。 <p>◆制度の拡充などで住みやすい恵那市に</p> <p>恵那市では、数年にわたり、各種の施策を充実させてきたことに加え、市内の各地域でも、移住者を積極的に迎え入れるため、地域の皆さんや先輩移住者が協力しながら移住定住に取り組んできた。</p> <p>◆市の施策として、子育て世代の支援では、高校生世代までの医療費無償化や第3子以降の出産祝い金の支給などに加え、R6年度は新たに子育てパッケージと銘打ち、見守り支援員がベビー用品を宅配する支援を開始、市内4か所の地域公園を整備する</p>

	<ul style="list-style-type: none"> • 電子地域通貨「さるぼぼコイン」と連携しカードレスに取り組み、アプリ内に「飛騨市ファンクラブ会員証」を表示する機能を追加し、スマートフォン1つで会員特典が受けられる。(宿泊特典：会員が市内宿泊対象施設に宿泊した場合に、宿泊費1,000円割引) ◆飛騨市ファンクラブ会員との交流 <ul style="list-style-type: none"> • 飛騨市の地酒や料理で、会員同士やスタッフとの交流を深める。 • 「飛騨市に行ける機会がほしい」との声にこたえて「飛騨市ファンの集いin飛騨市」やバスツアーを開催。 • お出かけファンクラブの開催 各地での「ファンの集い」は事務局の負担が大きく大変。そこで、飛騨市に関心のある方の会を催すと市長や職員が美味しい飛騨牛と酒、お土産を持参して全国どこへでも伺いますという企画。 • ファンクラブ同士での交流 他自治体のファンクラブとの交流会を実施。それぞれの会員同士が交流できるだけでなく、お互いの魅力を発信しそれぞれのファンをシェア! ◆ヒダスケ!どんなサービス? 飛騨市内にあるさまざまな困りごとの解決のために、全国の皆さんの力をお借りして、楽しく交流をしながら助け合いを生み出すプロジェクト。 ◎「関係人口」とは、地域とさまざまな形で関わる人々のことであるが、本市においても人口減少や少子高齢化により、地域の担い手や後継者不足などの問題を抱えている。この問題を解決する一つの方法が「関係人口の創生・拡大」である。 ではなぜ「関係人口」が必要なのか? 高齢化が進む地域に関係人口が増えることで、労働力不足や後継者不足を解消できると考えられているからである。また、新しい考え方が地域に入ること、より住みやすいまち、住みたいと思われるまちになるのではないだろうか。 	<p>などさらなる充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆移住定住に関する施策では、移住推進補助金の拡充や新設、フォローアップ体制を整えた地域おこし協力隊制度の新設などにより、移住定住を推進する制度を設けている。 ◎恵那市では、移住に関する施策だけではなく、さまざまな分野から、さらに「住みやすい恵那市」を目指して、市民が生活しやすいよう、また新しい住民を迎えやすいような取り組みがなされている。 本市においても、移住定住に関わらず、子育て世代の支援を充実させ「住み続けたいまち」・「住んでよかったまち」づくりに取り組むことが必要である。
--	--	---

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 下間 康広

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 平田 聖治	[副委員長] 下間 康広
	[委員] 小林 毅	[委員] 山下 秋則
	[委員] 谷尻 宣雄	[委員] 西村 好高
	[委員] 仲村 学 (欠席)	
視察先	岐阜県飛騨市	岐阜県恵那市
視察日	令和7年7月22日 (火)	令和7年7月23日 (水)
視察時間	午後2時00分 ~ 午後3時30分	午前10時30分 ~ 午前11時50分
調査事項	・飛騨市ファンクラブ事業について	・「住みたい田舎ベストランキング」第1位を獲得された状況について
行政視察を終えて	<p>飛騨市はH16年に2町2村が合併し誕生した市であり、人口や総面積など本市と近いところがある中で実施されている「飛騨市ファンクラブ」の活動について伺った。</p> <p>ファンクラブ設立の背景には、人口減少や高齢化・過疎化の問題があり、当時、県で実施されていた事業をもとに関係人口・交流人口獲得の為に、推進されてきた。</p> <p>ファンクラブを設立することで、飛騨市に興味を持っている方がどこにどのくらいいるのかが可視化でき、それをもとに広報や交流活動を行い、設立当初は2か月で29名だったクラブ員が令和6年度には1万6千人を超えるような規模になっていた。SNSやTVを職員の方がうまく使い努力された結果だとは思いますが、なにより市長が先頭に立ち事業を牽引されている姿があり、本市でもぜひ取り入れていただきたい姿勢だと感じた。</p> <p>ファンクラブにあわせて、「ヒダスケ」という活動もされている。ヒダスケとは市内の困りごとを地域内外の方の力を借り、交流しながら解決をしていこうという活動。市内の困りごとを非常にうまく交流資源に変えて活用している事業である。</p> <p>ファンクラブのベースがあるとは言え2020年の開始から411回のプログラムを開催し、4789名もの参加者が来て頂いてい</p>	<p>恵那市では2年連続で獲得されている「住みたい田舎ベストランキング」総合部門1位の内容について視察を行いました。</p> <p>このランキングは宝島社が行っているもので、ちなみに似たランキングではあるが2023年「移住にお勧めランキング 近畿エリア」で南丹市は10位にランクインしている。</p> <p>研修の中で職員の方から恵那市での数多くの独自移住支援策についてお話をいただいたが、特に心に響いたのは「検証と改善」の取り組みをしっかりと実践されていたところ。</p> <p>具体的に言うと、住みたい田舎ランキングの調査を検証ツールとしても捉えておられるところである。ランキングを出すにあたり約300のアンケートに答える必要があり、客観的に出来ている所・出来ていない所が可視化できる。それを改善することにより政策の充実ができ、ランキングや市の活性化に反映されるといった好循環が生まれていた。</p> <p>本市でも多くの予算が移住定住策に投入されているが、検証を含めた改善が積極的に行われていたのだろうかと思えて改めることができる機会となった。</p> <p>《両市の研修を終えた総括》 両市では、それぞれ市の魅力創出や発信を</p>

る成果には非常に驚いた。また、地域の困りごとなどの吸い上げやプログラム作成を、地域おこし協力隊の隊員1名が行っている事にも驚きました。

本市でも隊員の方が活躍いただいているが、その配置や市・地域との協力体制も再考すべきではと思う機会となった。

積極的に行い、地域内の活性化・地域外との交流・地域内への呼び込みが行われていた。

人口が減少をするのが大きな問題となっている。本市でも交流・関係・移住定住人口の創出は非常に重要な課題であると再認識する中で、あらためて、選んでもらえるための本市の魅力（環境・政策・立地・特色…etc.）とは何か、地域と関わってもらうには何が必要か、など深く考える良い機会となりました。

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 小林 毅

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 平田 聖治	[副委員長] 下間 康広
	[委員] 小林 毅	[委員] 山下 秋則
	[委員] 谷尻 宣雄	[委員] 西村 好高
	[委員] 仲村 学 (欠席)	
視察先	岐阜県飛騨市	岐阜県恵那市
視察日	令和7年7月22日 (火)	令和7年7月23日 (水)
視察時間	午後2時00分 ~ 午後3時30分	午前10時30分 ~ 午前11時50分
調査事項	・飛騨市ファンクラブ事業について	・「住みたい田舎ベストランキング」第1位を獲得された状況について
行政視察を終えて	<p>人口減少時代を生き抜く過疎自治体の挑戦をきっかけ、「関係人口」に着目し8年にわたってファンクラブをつくり拡大してきた飛騨市の先行的取り組みが注目されている。近隣でも、京丹波町が、人口減少への対応策として関係人口拡大を位置付けて取り組みをすすめている。</p> <p>「ふるさと住民登録制度」の創設、二地域居住の制度化が現実化する中、各自治体に対応が迫られるのは必至である。飛騨市の経験をはじめ全国各地の事例にも学び、本市としての対応策を検討していくことが求められる。</p>	<p>「住みたい田舎ベストランキング」は、月刊誌「田舎暮らしの本」(宝島社)が企画する取り組みで、全国1741市町村の内547自治体が参加している。</p> <p>恵那市は、子育て世代部門(1位)、シニア世代部門(6位)、若者世代部門(4位)、の地位にあるが、「ベストランキング」が設定している300のチェック項目をまちづくりの指標として活用し、結果として高順位を獲得するようになってきたとのことであった。</p> <p>どのような指標を活用するかによるのではあるが、先進事例等を生かしたまちづくりの指標を設定していくことは大切ではないかと考える。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 山下 秋則

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 平田 聖治	[副委員長] 下間 康広
	[委員] 小林 毅	[委員] 山下 秋則
	[委員] 谷尻 宣雄	[委員] 西村 好高
	[委員] 仲村 学 (欠席)	
視察先	岐阜県飛騨市	岐阜県恵那市
視察日	令和7年7月22日 (火)	令和7年7月23日 (水)
視察時間	午後2時00分 ~ 午後3時30分	午前10時30分 ~ 午前11時50分
調査事項	・飛騨市ファンクラブ事業について	・「住みたい田舎ベストランキング」第1位を獲得された状況について
行政視察を終えて	<p>1. はじめに 飛騨市(人口約21千人、面積792km²)は、岐阜県の最北端に位置し、岐阜市から約150km。市域の約9割を森林が占め、飛騨山脈の山々に囲まれたまち。平成16年2月に2町2村が合併して誕生した。 過疎化と人口減少が進む中で、地域に活力を生み出していくには、外部の人たちとの交流「関係人口」がポイントと位置づけ、関係人口の増加で、地域活性化や地域課題の解決を目指す「飛騨市ファンクラブ事業」(以下「本事業」という。)の取り組みを視察した。</p> <p>2. 取り組みの現状 本事業は、現市長の1期目の公約。移住者や観光客だけでなく、市に愛着を持つ地域外の“ファン”を増やして市に活力を生み出そうと、「観光客以上、移住者未満」とされる「関係人口」の拡大と、そのための市の外部の応援団「飛騨市ファンクラブ」(以下「ファンクラブ」)が2017年に設立された。 ファンクラブの入会は無料で、会員には会員証が発行される。会員は全国に広がっており、現在約17,000人。ちなみに、東京の会員割合は17%。</p>	<p>1. はじめに 恵那市(人口約46千人、面積504km²)は、岐阜県の南東に位置し、名古屋までJRで約1時間。平成16年10月に6市町村が合併して誕生した。 宝島社の「田舎暮らしの本」での「住みたい田舎ベストランキング」で連続全国1位を獲得している恵那市の移住・定住対策の取り組みを視察した。</p> <p>2. 取り組みの現状 恵那市は、月刊誌「田舎暮らしの本」(宝島社)の2月号の「2025年度第13回住みたい田舎ベストランキング」の「人口3万~5万人未満のまち」の総合部門と子育て部門の両方で、昨年に続いて全国第1位に選ばれている。 2年連続で全国でナンバーワンになったことについて市では、「数年にわたり各種の施策を充実させてきたことに加え、市内各地域で、移住者を積極的に迎え入れるため、地域の皆さんや先輩移住者が協力しながら移住・定住に取り組んできた成果」と分析している。 市の施策としては、高校生世代までの医療費無償化や第3子以降の出産祝い金支給、見守り支援員によるベビー用品の宅配支援、子</p>

ファンクラブの会員になると、飛騨市内での宿泊や買物などで割引を受けられるほか、飛騨市特産品のオンラインショッピングが利用できる特典などがある。また、2021年からは、会員証に「さるぼぼコイン」という電子地域通貨機能が追加され、スマートフォンだけで利用できるようになっていく。

宿泊・買い物特典以外に重要なのが、会員同士の交流事業。飛騨市内外で、会員同士やスタッフとの交流を深める機会を随時開催しているほか、飛騨市に関心のある人が主催する催しに市長や職員が出向く「お出かけファンクラブ」などを開催。京丹波町でも実施されたとのことである。

そのほか、会員同士の自主的な取り組みとして、「部活動の開催」がある。会員同士の交流促進と友人・知人を増やすことを目的に、飛騨市内の資源を題材としてテーマごとに部を設け、活動している。

これら活発なファンクラブの取り組みに伴って、ふるさと納税の実績も向上。ファンクラブが設立された2017年のふるさと納税の実績は、約6500件、3.5億円であったが、2023年には約13万2千件、20.3億円と、6年間で金額で約6倍となっている。

なお、2024年度の実績は14.4億円、約6万件と2023年度からは減少しているものの、ファンクラブ会員からの寄附は約1600件、約5030万円で、寄付額の割合は約4%とのことである。

本事業のもう一つの特徴は、「ヒダスケ」というプログラム。飛騨市民のさまざまな困りごとの解決のために、ファンクラブ会員の力を借りる取り組みで、困りごとを「関係案内所」というウェブサイトで公開し、手助けしたい人「ヒダスケさん」とのマッチングを行い、手助けした人には電子通貨「さるぼぼ」を通じてポイントなどが贈られる仕組み。

農作業や地域活動、イベントなどさまざまなプログラム（手助けしてほしい事項）が市民から寄せられ、2020年の事業開

初の遊び場としての地域公園の整備など子育て世代への支援のほか、移住・定住では、移住推進補助金の拡充・新設、フォローアップ体制を整えた地域おこし協力隊制度の新設などの施策を実施している。

令和4～6年度の移住・定住の実績は、次のとおりである。

年度	世帯・人	県外・県内の別
4年度	48世帯 125人	県外50人・県内75人
5年度	53世帯 136人	県外51人・県内85人
6年度	61世帯 161人	県外85人・県内76人

市の移住・定住施策の推進体制としては、地域振興の正職員・会計任用職員合わせて7人で、関係予算は、約1億1400万円。

3. まとめ

恵那市と南丹市の移住・定住施策を比較した場合、各制度のこまかな点での違いはあるが、施策のメニュー数や種類などで大差はなく、共に充実した施策となっているが、若者・子育て世帯に対する施策では、医療費完全無償化・多胎支援・出産祝金・不妊治療助成・産後ケア・育児サポート体制の充実など、ライフステージ全般に渡る包括的支援が特徴となっている。

移住・定住の実績面では、南丹市の4年度～6年度は、125世帯、290人と、恵那市の同時期122世帯、422人に比べかなり差がある状況である。ちなみに南丹市が移住・定住に取り組み始めた平成28年度から令和5年度までの実績は、339世帯、801人となっている。

宝島社の「住みたい田舎ランキング」は、全国の自治体に対して行うアンケートの回答結果をもとにしている。恵那市の担当者からは「300項目ほどの設問に答えることで、市の移住・定住施策を常に点検・評価する機会としている」と、取り組みの意義を強調された。

同誌における2024年度の南丹市のラン

<p>始から2025年までその数は約400回、手助けに参加した人は約4800人になっている。</p> <p>この「地域の困りごとを交流資源にする発想の転換」や「関係人口のマッチングによる地域づくり」を目指すとする「ヒダスケ」の取り組みは、「地域の魅力の再確認等に大きく貢献している」として、令和4年度まちづくりアワードで、「国土交通大臣賞」に輝いている。</p> <p>3. まとめ</p> <p>石破内閣による「地方創生2.0」では、地方の定住促進・活性化政策の一つに「関係人口」の推進が掲げられているが、関係人口の取り組みが、地方への移住・定住につながるのか、地域経済の活性化に寄与するのか、などの問題意識を持って本視察に望んだところである。</p> <p>視察冒頭、飛騨市の担当者からは、本事業は必ずしも移住・定住にはつながらないとの説明があったように、飛騨市では、人口を増やすことが主目的ではなく、市に継続して関心・愛着をもってもらえるを増やすことで、市の知名度アップや来訪者による地域内消費等などの経済面での寄与、「ヒダスケ」による地域課題の解決にあるとのことであった。</p> <p>移住・定住施策の取り組み・成果で南丹市は全国でも高水準の自治体であるが、移住・定住が地域の課題を解決する手立てとまでにはなり得ていないと考える。集落の行事等やコミュニティの維持、農作業などの担い手不足など、南丹市の抱える地域課題の解決に向け、飛騨市の関係人口施策、特に「ヒダスケ」の取り組みは、大いに参考とすべきと考える。</p>	<p>キング（人口1万～3万人未満）は、総合部門で9位（154団体中）、近畿エリアでは、総合部門2位（52団体中）と、上位にランクされているが、「若者世代・単身者部門」「子育て世代部門」「シニア世代部門」の部門別では、全国、近畿エリアのいずれにおいてもランキング外となっており、この状況は、2024年度のランキングにおいてもほぼ同様である。</p> <p>総合での評価は、「医療・交通・生活支援・自然環境など多角的に評価される」ことから「住環境のバランスが良いまち」との評価の一方、部門別で評価が低いということは、若者・子育て世代など「特定の世代に向けた魅力や制度が弱い」と分析できる。</p> <p>南丹市の人口減少を抑え、地域の活力を維持していくには、「若者・子育て世代」により響く施策の展開やPRの在り方など検討する必要があると考える。</p>
---	---

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 谷尻 宣雄

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 平田 聖治	[副委員長] 下間 康広
	[委員] 小林 毅	[委員] 山下 秋則
	[委員] 谷尻 宣雄	[委員] 西村 好高
	[委員] 仲村 学 (欠席)	
視察先	岐阜県飛騨市	岐阜県恵那市
視察日	令和7年7月22日 (火)	令和7年7月23日 (水)
視察時間	午後2時00分 ~ 午後3時30分	午前10時30分 ~ 午前11時50分
調査事項	・飛騨市ファンクラブ事業について	・「住みたい田舎ベストランキング」第1位を獲得された状況について
行政視察を終えて	<p>飛騨市は人口21,439人(令和7年7月)のまちで、平成16年2月1日に2町と2村が合併し、2011年からの10年間に人口減少と高齢化率が著しく「人口減少先進地」と言われていた。このような状況下の中で豊かなまちづくりを目指し、市外の人との交流(関係人口)を目的とした「飛騨市ファンクラブ」を2017年1月に設立、市に心を寄せてくれる人々に見える化し、直接コミュニケーションが取れる仕組みを構築した。ファンクラブ会員には様々な特典を与え、設立当初は会員が少なく、市議会の問いに、市長の一方的な指示で「1年間1千人」と豪語され、その達成に苦慮されたという。その後、SNSの活用で口コミが広がり、TVでの露出に成功し、人々が集まってくるという好循環で現在6月末までの会員数は16,829人であるという又、お出かけファンクラブの開催として、市長と職員が地元名産を持参して飛騨市に関心のある全国へ何う企画をし、交流を図っている。このような取り組みによりふるさと納税実績も2023年に20億円を突破したという。市民の困りごとを助ける「ヒダスケ」サービスを設け、市外の方に市内の困りごとを解消するシステムも関係人口の増加につながっている。今、関係人口の増加を謳う、国の地方創生取り組みの先端まちであると感じた。</p>	<p>恵那市は人口45,670人(令和7年4月)で、平成16年10月25日6市町村が合併したまちである。月刊誌「田舎暮らしの本」で「2025年度第13回住みたい田舎ベストランキング」で、「人口3万人から5万人未満のまち」の総合部門、子育て部門の2部門で2年続けて第1位に選ばれたまちである。</p> <p>市では、数年にわたり、各種の施策を充実させたことに加え、市内の各地域で、移住者を地域の住民が協力しながら、移住定住に取り組んできた結果、県内や県外から移住者が増加してきたという。子育て世代の取り組みとして、①経済的負担への支援、②よりそう支援、③子育て環境支援の3つの施策の柱として「子育て支援パッケージ」と銘打ち、意識調査などにより、市内4か所に地域公園を設置するなど次世代を強く支援し、子育てにつながる施策を実施されている。今回のランク入りについては、出版元からの300位の項目チェックがかけられ、それらチェックを一つ一つ実施していくことにより、1位という結果に表れたという。多くの施策においては、様々な目標を定め、項目をチェックするPDCAサイクルが用いられているが、近年では「時代遅れ」ともいわれており、スピード感を持った施策の執行と充実を図ることが必要であると今回の視察で認識したところである。</p>

◇ 行政視察報告書 ◇

《提出者氏名》 西村 好高

委員会名	総務常任委員会	
委員名	[委員長] 平田 聖治	[副委員長] 下間 康広
	[委員] 小林 毅	[委員] 山下 秋則
	[委員] 谷尻 宣雄	[委員] 西村 好高
	[委員] 仲村 学 (欠席)	
視察先	岐阜県飛騨市	岐阜県恵那市
視察日	令和7年7月22日 (火)	令和7年7月23日 (水)
視察時間	午後2時00分 ~ 午後3時30分	午前10時30分 ~ 午前11時50分
調査事項	・飛騨市ファンクラブ事業について	・「住みたい田舎ベストランキング」第1位を獲得された状況について
行政視察を終えて	<p>・一般的には移住定住に繋がりたいと考える所であるが、当初の計画から移住定住に結びつけないと割り切っているところが斬新であった。目的は飛騨市の知名度アップとふるさと納税に繋げることであった。</p> <p>・元々、岐阜県がファンクラブ事業を実施していたが、会員証を渡してファンクラブ通信を配るぐらいであった。そこで現市長は元県職員であり、この事業の可能性を感じていたことから市長選の公約で重点施策として実施することを訴えていた。</p> <p>・会員が伸びない時期もあったが、市長がギャグで謝罪会見動画を作成する等、アイデアを集めて「出来る事は何でもする」との意気込みで事業を進められたことは素晴らしい。</p> <p>・「ヒダスケ」というお困りごと助ける事業では、集落支援員が困りごとを収集するなど、地域おこし協力隊や集落支援員などが市の事業とつなげて上手く活躍していた。本市においても地域おこし協力隊の皆さんと協働で事業を実施していく必要性を感じた。</p> <p>・市長のリーダーシップが大事であると実感した。</p>	<p>・岐阜県は名古屋圏のイメージが強いが、国の事業等を活用して東京圏のフェアに積極的に参加する等、知名度アップに全力を尽くされていた。</p> <p>・戦略的に「住みたい田舎ベストランキング」の上位を狙う施策をされていた。賛否はあると思うが、結果的に1位になった事により、東京圏での知名度が上がっている。</p> <p>・移住促進事業や子育て支援施策は本市の事業と大きくは変わらないと感じた。戦略的に「住みたい田舎ベストランキング」の上位を狙うことも必要であるかもしれない。ただ、財政的に恵那市は本市と比べ優位であり、継続性の点で本市は劣ることになる。</p> <p>・子育て事業や次世代に対する事業に予算をつけることを振興計画で謳っている。選択と集中がなされていた。本市においてはもっと明確な選択と集中が必要である。</p> <p>・子育て支援についての先進事例等の勉強は議員と職員が一体になって進めていた。本市においても、その点については協力していく必要があると感じた。</p>